

# ポートランドの消費文化

Keep Portland Weird

森敏

アメリカで環境都市 No.1 といわれるオレゴン州ポートランド。自然に囲まれた人口 60 万人ほどの小さな街。自然との共生、スローライフを実践し暮らすのにほどよく、全米のベストシティランキングにも選ばれています。今でも毎日のように、この街の魅力を確かめに世界中の方が訪問しています。その理由は一体なんだろう？

文化や食の発信地として、ポートランドには美味しいコーヒーを提供するカフェや、オーナーのこだわりがぎっしりと詰まったショップや飲食店が数多くあります。小さな街にもかかわらず、ブリュワリーが世界一多く集まり、街から車で1時間も走ると広大なオーガニックファームやワイナリーも広がってきます。なかでも Willamette Valley は、米国・オレゴン州のウィラメット渓谷にあるアメリカ葡萄栽培地域で、冷涼・高湿の気候が特徴で、ピノ・ノワールの名産地として世界的にその名が知られています。

近郊のオーガニックファームでは、畑を馬で耕す「馬耕」を今でも続けている生産者もいて、訪問するとまるで半世紀前に夕

イムスリップしたかのような風景が広がっています。街とファームが近く、新鮮な食材の宝庫とあって、さまざまな街から移住してポートランドでお店をはじめたシェフも多い。Farm to table や生産者をサポートする CSA といった生産者の顔の見える仕組みも確立されていて、飲食店を夢見てスタートアップとしてはじめることができるフードカートや生産者と直接会話ができるファーマーズマーケットもポートランド発祥の食文化といえます。

街の人口に対する飲食店の数が多い街として「食の都」ガストロポリスとも呼ばれています。また障害者や子どもやベジタリアンやビーガンにも優しい街でもあり、福祉や NPO などの活動も充実しています。多種多様な人が集まり環境や人に配慮したコミュニティや取り組みをいたるところで見ることができます

地元愛の強い街としても知られており、森林公園や自転車専用道路も整備され、都会と自然の調和した街の姿はポートランドの街をより魅力的にしています。90年代のアメリカは、車ではなく自転車やスケートボードに乗り、好きなアートや音楽を歌い愛や平和を大切にする時代だった。それがまだ現実に今でも存在している街でもあります。自転車通勤をする人が多く、お店で雑貨や食品を買っても過剰包装はせず紙袋。河川や海洋を汚染する要因になるビニール袋の使用は禁止されています。地産地消の消費行動があたりまえに広がっていて、消費税がか

からないというのも、ポートランドのお買い物の特徴の1つです。

「KEEP PORTLAND WEIRD」街のスローガンとなっているこの言葉は「ポートランドはへんてこなままでいよう」といった意味。自分たちで作れるものは何でも作るというDIY精神を大切にし、効率や生産性など除外したクリエイティブな人々が多い創造都市でもあります。また、ナショナルチェーンよりローカルなスモールビジネスや職人を支持し、仲間を賞賛しあう。ものづくりに対する深い愛情のある街であり、作りてのこだわりや、職人が作ったものを大切に長く使う習慣があります。

ポートランドが世界中から注目されている理由は、自然との距離、サステイナブルな街づくり、食のフィロソフィやアートの素晴らしさ、環境や人への配慮・多様性、福祉の充実など・・・伝えきれない様々なものがあります。

あえて1つあげるとするなら、独特の「消費文化」がつくられている街であり、「エシカル消費」をあたりまえに実践し続けている街といえるでしょう。是非、ポートランドに行って身体で感じて見てください。

森 敏